

2012年度～2013年度 国際ロータリー第2790地区



ロータリー情報研究会

報告書

『職業奉仕に生きること 話し合い 語り合おう』

- ◆日 時： 平成24年9月19日（水）12時30分点鐘
- ◆場 所： 松戸商工会館 5F大会議室
- ◆ホストクラブ： 松戸西ロータリー・クラブ



第12分区 5クラブ合同例会

点 鐘

松戸西RC会長 渡辺 孝治

国歌斉唱・ロータリーソング斉唱

来賓紹介

松戸西RC会長

渡辺 孝治

第12分区会長・幹事紹介

松戸西RC幹事

中村 文典

ホストクラブ会長挨拶

松戸西RC会長

渡辺 孝治

各クラブ幹事報告

5クラブ幹事

ご挨拶

第2790地区職業奉仕委員長

海寶 勘一

第2790地区職業奉仕委員

高梨 昇一郎

第2790地区職業奉仕委員

堀内 正一

第2790地区職業奉仕委員

松田 泰長

点 鐘

松戸西RC会長

渡辺 孝治

情報研究会

『職業奉仕に生きること 話し合い 語り合おう』

開 会 宣 言

松戸RC会長

加藤 栄

ガバナー補佐挨拶

第12分区ガバナー補佐

川上 伸夫

ご 挨 拶

第2790地区職業奉仕委員長

海寶 勘一

各 ク ラ ブ 発 表

「貴方にとっての職業奉仕」

5クラブ代表者発表

松戸RC

伊原 清良

松戸東RC

幸松 康彦

松戸北RC

鈴木 悦朗

松戸中央RC

福澤 昭弘

松戸西RC

松尾 雄二

全 体 討 論 会

10テーブル各々討論会

所 感

第12分区ガバナー補佐

川上 伸夫

謝 辞・閉 会

松戸北RC会長

長島 正巳

ホストクラブ開催挨拶



ホストクラブの会長といたしまして一言ご挨拶させていただきます。
あらためまして、本日お越しいただきました2790地区パストガバナー石井亮太郎様、地区職業奉仕委員長海寶様、各委員の方、そして、川上ガバナー補佐、出席誠にありがとうございます。

西クラブが情報研究会のホストを努めますのは7年ぶりです。といたしますのは、本年度ガバナーの得居様より、補佐を、西クラブの順番の時に東クラブと入れ替えてくれ、との要請が有りお譲りしました。あの時、断っていたら、今年、得居ガバナーが誕生していたのかなどと、つまらぬ空想をしております。ですから、3年後に、ホストを勤めます。

西クラブのことを話します。昨年度3名増強しました。30歳代1名40歳代1名50歳代1名です。RI会長賞をいただくための会員増強はクリアしました、その他をクリアするため、前年度会長以下頑張ってきました。おそらく、RI会長賞いただけると思います。3年後当クラブは30周年を迎えます、そこでRI会長賞を看板にして、会員数30名を目標に増強をしてゆきます。

先程は、2名によるクラシックの演奏をお聞きいただいたと思います。これは、一つには、皆さんを迎える気持ちの表れと受け取っていただきたい、また、情報研究会、最後まで参加いただきたいことも含んでおります。いずれにいたしましても、情報研究会多数の参加をお願いいたしまして、会長の挨拶といたします。



ガバナー補佐挨拶



第2790地区パストガバナー石井亮太郎様をお招きし海寶勘一地区職業奉仕委員長・高梨昇一郎・堀内正一・松田泰長地区委員のご指導の下、第12分区5クラブ会員の情報研究会を開催させていただきます。

ロータリーの中核にあるのは、奉仕の力に対する信念です。

その志を基に第2790地区 得居 仁 ガバナーは、ロータリーとは「奉仕という基本理念の上に立って事業が行われるようにする」ロータリーは、実業人・職業人の集団で職業奉仕についてはプロでなければならない。よって「ロータリーの目的は、職業奉仕の推進にある」地区運営基本方針は、職業奉仕の推進クラブサポートの強化よき親睦は、ロータリーという苗木が根を下ろし、生長するための土壌をなしている。

ロータリーのモットー「最も多く奉仕するもの、最も多く報いられる」を提唱したアーサー・フレデリック・シェルドンの1917年発行された「ザ・サービス・オブ・ビジネス経営学」で奉仕（貢献）は、相手に満足感を与えることと定義しています。

1970年ロバート・グリーンリーフは、リーダーが支配することで部下を動かすのではなく、奉仕をすることで部下を導くサーバント・リーダーシップを提唱され、近年特に注目されています（資生堂・ウォルマートなど）。自立型社員（志を共有する）の基本発想は同じと思います。さらに進めてロータリーは、超我の奉仕（親が子に尽くす様なもの）を推進します。

唯一職業奉仕は、自分に対して何かを奉仕するものではありません。会員個々が、自分の職業の質を高めること道徳心を高揚させること、これを自分の職業に反映させることが基本であります。この精神を自分ばかりでなく、自分の職業はもちろん同業者を含む業界までに拡大させることが、全ロータリアンの使命でもあります。

クラブ職業奉仕といえども個々の会員の職業の質を高めることや、道徳心を高揚させる事など不可能です。まず今貴方から奉仕という行動に移して行くことが大切なのでしょう。



国際ロータリー第2790地区
2012 - 13年度 職業奉仕委員会
委員長 海寶 勘一

本日は第12分区のロータリー情報研究会を開催することが出来、主催された川上伸夫ガバナー補佐さんには多くのご指導を賜りホストクラブの松戸西RC、会長の渡辺孝治さん、幹事の中村文典さんには、会場設定等準備に多大なご支援とご尽力を頂き、地区委員会として心からの感謝をしております、誠にありがとうございました。

今年度得居ガバナーは、年度活動運営の要望事項として職業奉仕の推進を掲げてくれました。

まずは、ロータリアンとして遵守すべき綱領を良く理解し、その奉仕の理想を基本とさせて、つねに相手方を思い遣る、優しく豊かな心を持ち、ご自身の事業繁栄に邁進することと述べております。更には、綱領の理解と推進が職業奉仕の理解と推進でもあると結論付けてくれ、ガバナーの年度要望事項として職業奉仕の一層の推進を提示されました。

その手法としては、クラブ会員の自主的な研修によるクラブ強化を提案され、このことを踏まえて私達地区職業奉仕委員会は、クラブメンバーの皆様にお互いに胸襟を開いて、自由闊達な双方向意見交流をする場を考えてみました。

我々、ロータリアンは定款第8条の職業分類によって選ばれた自信と誇りある職業人でありますので、自らの職業を素直な立場で話し合い語り合える認識を深めることを活動方針としました。

得居ガバナーも一緒に考えて頂いたテーマですが、職業奉仕に生きること 話し合い語り合おうと目標が決まりました。

そのためには、私達地区職業奉仕委員会の立場は、地区内第85番目のクラブ委員会仲間であると位置づけて、まずはクラブ職業奉仕委員長さんと話し合い語り合う場を設けることが最善であるとの結論でした。

その考え方としては、すでに委員長さんが経験された隣接2分区ごと計7回のクラブ委員長セミナーを開催して、様々な他クラブメンバーとの職業倫理や人間性を磨くことを語り合っていました。

きょうのロータリー情報研究会の テーブルマスターとして準備のためのヒントを学んで頂き、双方向意見交流をクラブでも実践して頂くためでもあります。ロータリー情報研究会と言えば、経験的には博識ある立派な講演者を迎えた卓話等で、賢人の理念や歴史観の講話を聴き入ることが数多くありました。

このことは有意義な学びの手法であります、職業人として活躍されるご自身の考え方を自ら伝え語り話し合うことは、一層尊敬される模範的な職業人となりえる最善の手段でもあると思います。何よりも大きな筋道として、職業人同士が理解と価値を分かち合い切磋琢磨できる絶好の機会になると考えています。

価値ある職業人を代表するロータリアンであればこそ、今一度綱領を読み解き理解をする必要があります。

その2項に書かれている文章には、事業及び専門職務の道徳的水準を高め、あらゆる有能な職業は尊重されるべきとの認識を深め、ロータリアン各自が事業を通して社会に奉仕をする為に、その事業を品位有らしめることを端的に謳っております。

第2項これこそが職業奉仕の根本と素直に受け止めれば、益々ロータリー活動が有益で誇り高く感じ、最もよく奉仕をする者最も多く報いられることを体験できるでしょう。

皆様の中には、職業奉仕の理念や知識と歴史を学ばずに、また双方向意見交流の結論も求めない本日のロータリー情報研究会に対して、なにかしらのご不満をお持ちの方もいらっしゃると思いますが、職業奉仕の理念や歴史観を深く掘り下げて学び、また研究することだけがロータリアンの研修スタイルではないことも是非とも気づいてほしいのです。

綱領の第2項に書かれています様に、品位をもって事業に専念する姿勢からは、尊敬と信頼を世の中の人々から受け、日々模範的な職業人としての信用を大きく得ることに、私達ロータリアンの使命があることを自覚する必要がある気がします。更には四つのテストを活用させ、日々研鑽し向上するのであれば、毎例会時に自らが示している、何気ない自身の言葉づかいや仕草こそが大切になり、立派な職業人としての姿勢になることでしょう。

例会に出席することにより、職業人同士の体験談や知識や知恵等を耳にでき、職業倫理を互いに学びあう立ち居振る舞いや言葉遣いは尊いものだと思います。

日々一心に職業に精進するなかで、一生懸命に生きる職業人としてのしぐさこそが自分自身を素直に表現させますし、さりげなく感化し合えることを信じております。皆様と話し合い語り合う場から、少しでも自己研鑽と向上心の価値が高まり、徳性と品格あるロータリアンに成長されることを期待しています。

地区協議会で提供しました4つの挿話ですが、時間経過とともに中に書かれている人間性の価値観の評価が高まりつつあります。

クラブに於いて職業人としての自己啓発や、向上心に結び付けて頂けたら嬉しい限りです。

世の為人の為を先に思い遣り、自負心をもって事業繁栄に結びつける職業人として、職業奉仕に生きること 話し合い 語り合おうの 双方向意見交流を、限られた時間の中ですが、和やかに大いに楽しんでください。

また是非ともクラブ委員長さんが率先をして、各クラブの中でも広めて活用して頂きたいものです。

- ・胸襟を開いて自由にディスカッションに参加しましょう
- ・先ずは人様の発言を注意深く聴き入れましょう
- ・ご自身の職業奉仕経験を自由に話し合い語り合しましょう



地区職業奉仕委員
高梨 昇一郎

貴重なお時間を拝借しまして大変恐縮でございますが、海寶委員長から各委員もしゃべれということで、命令でございますのでお話をさせていただきます。

私は隣の第13分区、野田ロータリークラブの高梨昇一郎と申します。

2010年～2011年の会長を務めさせていただきました。

本年職業奉仕委員になぜ私が任命されたのかは、ちょっと私自身も良くわかりません。

一つ思い当ることは、実は海寶委員長が千葉西ロータリークラブのメンバーでありまして、一昨年のロータリー情報研究会が野田で開催されたときに、当時の土屋情報委員長と海寶さんがお見えになりました。

その研究会で、私はホストクラブでございましたので、いろいろとお話をする機会がございました。そこで私は「職業奉仕って良くわからないですよ。」ということ、確か申し上げていたと思います。

しかし「こういった例が野田にはあります。」ということで、その例として挙げたのが古い江戸時代ですね、野田の醤油造家の救済の話です。これが天明と天保の二つの飢饉の際に野田の醤油屋が、こぞって数万の人を飢餓から救い、あるいは病気を癒してやり、しかし死者も大変多く生じた訳ですけれども、そういった歴史のことをお話ししました。

そしたら「高梨さん、それは職業奉仕だよ。」って、海寶さんが呟くんですね。

「だったらこれをまとめて話をしてくれないか。」と言う。そういう依頼がございましたので、これが私としてもいつかはその隠れたる飢饉救済の、私どもの野田の醤油屋の先人達が尊い私財を投げ打って人々を難儀から解放したという、これは絶対にどこかで私は、語りついていかなければいけないと、以前から思っておりましたので、これが機会かと思ひまして恥ずかしながら千葉西ロータリーへ参りまして、この卓話をさせていただきました。

多分これが海寶さんが私を職業奉仕に選んだ理由の最たるものではないかと思っております。

今日は皆さんと、職業奉仕に関する研究会を行うわけですが、従来の研究会と言うのはトップダウンと言いますか、委員が卓話をしてあるいは講演をし、そのレクチャーの中から学んで頂きたいと言うことを申し上げますけれども、本日のこの情報研究会は皆さんで今のご自分の仕事を通じて、その仕事は社会のために役だっているのか、又役に立つような努力をしているだろうか、そういった観点で気楽にお話をしあって頂きたいと言うのが、私どもの委員の希望でございます。長くなりますからこの辺で止めさせていただきますが、本日は宜しくお願い致します。



地区職業奉仕委員
木更津RC 堀内 正一

先程、松戸の駅で海賓委員長より『情報研究会で何か、お話して下さい！』と急をお願いされて、困ってしまっている次第ですが、まずは自己紹介とロータリアンになって良かった事など、お話していきたいと思っております。私は、木更津RCから来まして、ロータリー暦・現在26年、職業分類は、建築資材販売・主にワイヤーロープ加工販売を営んでおります。どの現場においても品質の安定を求められ、安心して安全な材料を求められている状況ですが、その中で、国内メーカーも価格競争に大変苦勞をしている中、海外メーカーも多く進出してきている状況です。

私共も、時代に沿った形で、海外メーカー商品も扱っていかねば行けないかと思いい、自分で、ネットで調べ、台湾のメーカーに飛び込みで会いに行ってきた事があります。そこで、対応してくれたその会社の会長さんが、私がつけているロータリーのバッジをみて、『貴方はロータリアンですか？』と日本語も流暢にお話下さり、このバッジ一つで信用してもらい取引が成立した事が有りました。

本当で有れば、初めての取引であれば、前金を収めてからの取引となるのですが、ロータリアンで有った為、『品物が到着した後に、お金を送金して貰えば良いよ！』と言って貰えた事が今でも、ロータリーに入って一番良かった事だと思っております。

もう1つは、ISO9001番の取得の際に、品質方針の考えに、『4つのテスト』の教えを入れ、社員教育にもそれを使っていることで、ロータリー力を借りている事が、ロータリアンで良かった事でございます。

今日のロータリー情報研究会が、余り難しい理論的なディスカッションにならぬ様、こんな様に、実践的なお話でお話し合いが出来たら良いなと思っております。

そして、なるべく多くの方が、話せる場を作り、楽しい会合になるようテーブルマスターにお願いしたいと思います。宜しくお願い致します。





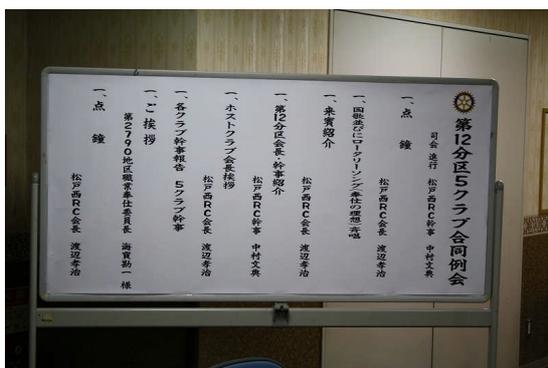
地区職業奉仕委員
成田RC 松田 泰長

今日 電車で一時間でこちらに到着しました。成田ロータリークラブの松田です。こういう形で突然振られて、3番目は一番辛いですね、みんな話されてしまい。3人の話を聞かせていただいて、感じたところを私なりに話をしたい。入会しまして、12年目です、会長、まだやってません、今、ノミニーです、再来年会長です。なぜ地区委員か、私もピンと来ないのですが、9年前の情報研究会が千葉で、2790地区 全体を各分区からピックアップして意見発表をしました。

その時 松田、まだ新しいから行ってこいと、その場で意見発表しました。さて、どういう話をしようかなと、話をしたのは、4つのテストです。今日は銀行の支店長さん、お見えでしょうか。実はですね、私、商売を初めて平成元年の設立ですので、そう永くありませんが電子機器の設立施工販売です。色んなところと取引する中で、その中でうちは手形支払いです。

今は違いますが、昔は上場企業の手形持って銀行に行くと格が上がったのでした。情報研究会で皆さん、企業のトップだと思いますが、今期の決算終わったら、手形決済で手形発行の方、是非、手形帳を返してくださいという、話をしました。これを、15分くらいに纏めて話をしました。私の感覚ですが、手形発行の方支払いに余裕を持つ、貰った方はただの紙です。4つのテストに、あわせて公平でないという観点からそんな話をしました。

会長から拍手をいただき、感激したお覚えがあります。こんな人間だというところで、紹介させていただきました。今日はよろしくお願ひいたします。



情報研究会発表者

サブテーマ ～貴方にとっての職業奉仕～

- 松戸RC 伊原清良 会員
- 松戸東RC 幸松康彦 会員
- 松戸北RC 鈴木悦朗 会員
- 松戸中央RC 福澤昭弘 会員
- 松戸西RC 松尾雄二 会員



職業奉仕に生きること

松戸ロータリークラブ
伊原 清良

松戸ロータリークラブの職業奉仕委員会の伊原清良と申します。職業分類は食品加工業、松戸市南花島で雪和食品という会社を運営しています。主力商品はパン粉と片栗粉です。従業員は43名。創業は昭和21年。あと数年で70周年を迎えます。年齢・62歳です。

こういうお話は石井亮太郎パストガバナーはじめ諸先輩を前にしては、ある種の気恥ずかしさを感じるものです。自分が会長エレクトの時、確かインターシティミーティングの会場で、松戸ロータリークラブの土屋亮平パストガバナーに「次年度、松戸クラブの職業奉仕委員長になって頂けませんか。」と突然のお願いをしました。恐る恐るではありません。理由は当時の自分なりにロータリーにおける「職業奉仕の衰退」を危機として感じていたからなのであります。その時点での第2790地区組織図には、職業奉仕委員会がなんと右下にあったのでした。CLP(クラブ・リーダーシップ・プラン)を声高に主張された当時のガバナーは「決して職業奉仕をないがしろにしている訳ではありませんよ。」とおっしゃっていましたが、明らかに付け足しの地区の職業奉仕委員会が一番右下にあったのは事実なのであります。土屋パストガバナーには委員長就任をにこやかに快諾して頂きました。

その後、銚子の織田吉郎ガバナー時に私は松戸クラブの会長になり、地区の職業奉仕委員長にも土屋パストガバナーが就任されたのは皆さんもご承知の通りであります。織田ガバナーは職業奉仕委員会を最枢要委員会と位置づけをされ、地区では職業奉仕委員会の本日お見えになっている海寶さん、堀内さん、松戸の中山政明さん、松戸東の安蒜俊雄さん達が精力的に活動され、職業奉仕が見事に復権されました。松戸ロータリークラブでは土屋職業奉仕委員長と森田雅久クラブ研修委員長との二人三脚で例会終了後の一時間、「おーいお茶」一本だけでクラブ職業奉仕研修セミナーと称して、一年間で8回程、開催しました。「今更、人に聞けないロータリーの話」であったり、「江戸しぐさ」を学んだり、笑いの絶えないアットホームな時間が過ごせました。土屋会員はじめ、銀行の支店長たちや若い会員、それぞれが「立場や年齢の差を忘れて」身近に感じることが出来たのではなかったかと思われます。今年度も来週、待山克典クラブ研修委員長のもと第1回目のセミナーが予定されています。

私は今でも、国際ロータリーやロータリー財団の考え方の潮流である「世界のボランティア団体をめざす」というのに反対です。他団体には無い「職業奉仕こそがロータリーのロータリーたるゆえんである。」と信じていますし、人間的な成長をどこに求めるかといえばロータリーであるとも信じています。ところが現在、私はロータリー財団の地区委員としてRIや国際財団の方針を伝えなくてはならない立場にありますので、心の矛盾を感じずる場面もあります。

さて、私の職業奉仕観を考えると、「人は如何に生きるべきか」ということになります。これは十人十色、百人百色であります。人間のやることに絶対的な善もなければ、絶対的な悪もないのでしょうか。最善をめざして真摯にやり抜いてみるのが大切であり、あとはさっぱりと「天命を待つ」という姿勢で良いのでしょうか。

しかし経営者としては「道はずしたくない」「損をしたくない」という強迫観念が常にあります。経営の指針とか羅針盤をもつことが、リスクという津波の防波堤となります。昔からの商家の家訓や論語などの中国古典や更には仏教や武士道など、学ぶことのすべてが「人は如何に生きるべきか」の血肉になると思います。心の道德律をしっかりしたいと考えます。哲学者カントの言葉に「天にあっては輝く星、地にあっては吾が心の内なる道德律」という言葉があります。どちらも負けずに美しいものだ、今は亡き佐藤千壽パストガバナーからロータリーの会合でお聞きました。私は弱い人間なので、いつも心の道德律をしっかり確認している毎日です。最近ロータリーで手にいれた言葉で気に入っているのは、「老練な企業経営者にして始めてできる紳士の振舞と思慮深さ」というものであります。これは裏を返せば、私が「紳士的な振舞に憧れ」があり、更に「自分には思慮深さがないな。」と自覚しているからなのであります。

ロータリークラブに入会させて頂いて17年。偶然かも知れませんが、お陰様で、会社はずっと上げ潮であります。ロータリーには「商売のコツ」があると実感しています。商売という言葉にひっかかる会員には「人間力を上げるコツ」でもかまいません。

皆さんはロータリアンには「運が強い人」や「ついている人」が多いことを自覚していますか。お金持ちに生まれたことに「感謝できる人」や自分は「いい人に囲まれ幸せ者だ」と実感できる能力を学ぶのがロータリアンだと思います。ロータリークラブの例会場には「善意を感じる能力」や「笑顔の力」が溢れています。

私はロータリーで学んだことを会社や従業員にすぐに持ち込みます。まさに「入りて学び、出でて奉仕せよ」です。2年前、銚子の織田吉郎ガバナーが「伝統的で、誇りあるロータリー運営をしましょう。」と言えば、すぐに会社では、「仕事に誇りを持ちなさい。でもその誇りの裏返しには責任を果たす義務があるのですよ。」とやる訳です。

ロータリーには「言葉遊び」みたいなことがあるかも知れませんが、「従業員の幸せ」を目標にしている経営者の話は良く聞いてくれます。

若い頃は強烈にお金に対しての強い欲を持っていました。ところが現在はホリエモンなどの金融不祥事を見るにつけ、儲けた奴の勝ちとは思わなくなりました。

若い頃の従業員に対しての思いは「皆、馬鹿ばかり！」と思っていました。本当は自分が馬鹿だったのです。自分がうぬぼれていたのです。現在、社員たちは皆かわいいと思うし、良くやってくれているし、しっかりと叱ることも出来ます。何の為に仕事しているかと問われればはっきりと「従業員の幸せ」と答えられるようになりました。

こんな考えができるようになったのはロータリーに入会したからだと思います。そしてお陰様で弊社は毎日、たくさん全国各地からご注文を頂けています。この秘訣はいったい何かと尋ねられましたら、私は迷わず「ロータリーに入会したこと」そして、「職業奉仕を知ったこと」、それを「実践したこと」によると答えます。以上で私の話を終わります。自慢話になってしまいました。申し訳ありません。ご清聴ありがとうございました。



「日々の積み重ね」

松戸東ロータリークラブ
幸松 康彦

日常の業務において、いかに相手に満足いただけるかを考えながら取り組んでいます。求められている事は何か、疑問に的確に対応できているか、相談を通じて次のアイデアを出してあげられるか、それらを可能にするため必要なのは何かを追い続ける事が課題であろうと思います。しかし、それを全て実践できているかと言うと疑問符も出てまいります。

当然ながら、利益を第一に考えるのは正しい事なのですが、それだけを求めるあまり、本来やるべき事がおろそかになっている場面も少なくないと感じます。

それを検証し、改善を試みているうちは何の問題もなく、プロフェッショナルの道に前進しているのだと思いますが、利益を出すためなら何をやってもかまわないという発想から、様々な犯罪や悪影響を産む事に繋がっているのだと思います。

世の中全体を見渡すと、競争社会の中で生き残るために、ともすると「一時期の利益」に走る気持ちが前面に出てしまう人々も多く、それも仕方のない事かと思う事もあります。

そして「きれい事」で片づけてしまいがちな世の中であるのも確かでしょう。

そういう、様々な思惑が混在する現状だとしても、自分にとっての「職業奉仕」とは、プライドを持ち続けられるように、本業以外での知識や情報、スタディーケースの場面があれば、その実践の場に自分自身を投じる事だと思っています。

色んな書物が存在し、マニュアル本も多数読む機会がありますが、心からそう願えるか、取り組めるか、知識を得ただけで満足していないかどうか、自分に問いかける機会、自分を高め、次世代に伝える機会、それらをより多く作り出す事が職業奉仕だと考えます。

言葉にすると、随分堅い話になってしまうのですが、「やるべき事をやる」事を通じて、プロフェッショナルとしてその職業を極めて行く姿勢があればこそ、本当のプライドを持つ事ができるのかと思っています。

昔の人たちが、「死ぬまで勉強」という言葉をよく口にしてたように思いますが、色々な学びを通じ、次世代に伝え、人生を全うする。

私にとっては、一番解りやすい言葉です。



『わたしの考える職業奉仕』

テーマ：職業奉仕に生きること 話し合い 語り



松戸北ロータリークラブ
鈴木 悦朗

私が昨年会長を受ける前、「職業奉仕」は「職業を通しての社会貢献」だと思っていました。3.11の東日本大震災があって、福島からの避難者が松戸市役所のロビーにいっぱいになって困っているのをテレビを見て、体育館や公民館など、先進国らしからぬぎゅうぎゅう詰めになっている避難所の姿を拝見し、お寺の社会貢献を模索していた私は、全国のお寺に先鞭をつけるカタチで避難所を引き受けました。避難者との生活は、「朝のおつとめ」を一緒にし、食事の前には「食前のことば」を唱える「祈りの中の生活」でした。

二次避難所が決まって数ヶ月が経過し、近くの避難されている方から、「朝のおつとめ」は家族を超えるおつきあいが出来なくなった方にお祈りを捧げ、また自分たちも何かあったときに共に絆を感じさせてくれる絶好の機会だったとのメールをいただき、これも地域貢献と思い、1月からは「朝のおつとめ」を参加したい方はどうぞと呼びかけしたところ、土曜日曜日曜日は10名以上の方々が常連として来ていただくようになりました。これらのこともひとつの自分の職業奉仕かと思えます。

会長を引き受けるにあたり、WCS時代にお世話になったパストガバナーやクラブの先輩方から、会長挨拶のときには、世間話ではなくロータリーのことを一貫してしゃべりなさいといわれ、紹介された源流の会とかさまざまな会に入り、特にロータリーにしかない「職業奉仕」について学ぶ機会に恵まれました。

職業奉仕には、天職論、経営哲学論、倫理論あるいは職業を通じた地域社会への貢献等さまざまな考え方があります。

お時間がないので、もっとも身近な「ロータリー綱領」と「4つのテスト」を切り口に述べさせていただきます。

4つのテストは皆様方よくご存知ですが、ロータリー綱領については覚えていらっしゃる方が多いのではないのでしょうか。先日8月9日に第12分区と第13分区でフォーラム形式の「職業奉仕セミナー」があり、野田のほうの2クラブでは、例会のときに、必ず綱領唱和があり、最初は手帳を見ながら行っていたが、今はもう覚えてしまっているというお話しをお聞きいたしました。うちのクラブでは知っている人はいるけれども、理解されている方がまだ少ないように思えます。

「ロータリーの綱領」は、非常に抽象的な言葉で言い表されているため難解な文章となっております。ここでは簡単に説明させていただきます。

綱領本文において、「ロータリーの綱領は有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成し、特に次の各項を鼓吹育成する」と書かれております。

この文において、「**有益な事業の基礎として**」が中心概念であり、ロータリーの目的は「**職業奉仕**」にあることを表現しております。但し、非常に抽象的な言葉で言い表されているため、何通りにも解釈されることもあり補足（構成要素）として4か条を規定しております。

第1項目：「奉仕の機会として知り合いを広めること」（クラブ奉仕の定義）

初期ロータリーでは「親睦を深める」Encouragement of fellowship と書かれていましたが、後に「知り合いを広める」Development of acquaintance に変わりました。これは「親

睦」を会員同士の物質的相互扶助と解釈されるのを防ぐためであり、「知り合いを広める」と改めることにより、知り合いの人をロータリーに引き込もうとする意図があります。つまり、会員増強です。ただし、ポール・ハリスは“ロータリーの本体は親睦と奉仕の調和の中に宿る”と言っているように、第1項目を「親睦」とし「心の友を得ることによって奉仕を実践しよう」という意味があり、そしてこの親睦は社交的な親睦ではなく、心の友を得ることにより互いに切磋琢磨し、それによって人間性の向上をはかる。

これが奉仕の契機となるものであるという考えもあります。

第2項目：「①事業及び専門職務の道徳的水準を高めること。②あらゆる有用な職務は尊重されるべきであるという認識を深めること。③ロータリアン各自が、業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること」（職業奉仕の定義）

この文章は3つに分かれており、あえて番号を打たせていただきました。説明としては①からではなく③から説明したほうが分かりやすいので③から説明いたします。③ロータリアンは職業を利潤追求だけのものであると思わず、自分の職業を天職と思い、社会的責任を自覚し、世のため人のために営んでいるという心を持つべきである。②そして、その心を勉強するためには例会に出席しなければならない、例会においては皆が平等な立場に立って学びあわなければならない（均一的平等の法則）。

従って、パストガバナーも昨日入会した新入会員でも平等な立場で学びあう。③例会では「奉仕の心」を学び、まず自分の業務を品位の高いものにしなければならず、それをもって初めて社会に倫理を提唱できるのである。

第3項目：「ロータリアンすべてがその個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用する」。（ロータリーの奉仕活動実践に対する定義）。

ここで重要なのは、「ロータリアン全てが」と書かれている点です。クラブで団体奉仕（We serve）するのではなく、ロータリアン一人ひとり（I serve）が奉仕の実践をしなければならないのです。例会で学んだ「奉仕の心」を、まずは個人生活に、家庭に、自分の職業社会に実践する。そして地域社会に広めていくのです。

第4項：「奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること。（国際奉仕の定義）

ロータリーは地域社会のみならず、その延長線上にある国際社会に目を向けております。第1次世界大戦を契機に、人類平等、戦争の再発防止、人類の平和と繁栄に寄与することを目的に、1921年のエディンバラ国際大会において綱領の第4項に付け加えられました。国際奉仕活動はロータリアン同士の親睦と相互理解によって世界平和を目指すものです。

以上がロータリー綱領を簡単に説明させていただきました。「4つのテスト」は、ご高承のように、ロータリーが独自に作ったものではありません。ハーバート・テイラーが倒産寸前だった、クラブ・アルミニウム社の再建を10年で一流の企業に育てたスローガンが「4つのテスト」でした。そのスローガンを彼が1954年に国際ロータリー会長に就任したのを契機に、その版權をRIに無償で寄付したのが始まりです。ここにロータリーの「ノウ・ハウの公開」という原則があります。

自分が成功したからといって、そのノウ・ハウを秘密のものにしてはいけません。ここで言っているノウ・ハウは産業秘密的なものではありません。成功したことが完全に立証されたノウ・ハウです。これを事業に失敗した人や、同業者に公開することで共存共栄がはかられ、ロータリアンがその業界のリーダーシップをとることになります。

これが職業倫理の提唱です。そして、ハーバート・テイラーは4つのテストは商道徳高揚のスローガンだけではなく、またロータリーに限らず、人生全般の判断基準として利用されるものであると言っております。

「フォアウェイ」とは「4つ辻」でもあるといわれております。

人が4つ辻に辿り着き、左右前後どの道を歩むのかを考えると、どの道が正しく、どの道が悪しき道なのかを考える判断基準でもあります。この和訳は昭和29年に各地のロータリークラブから和訳を募集して、わかり易く、問いかけるもの、そして抽象的な言葉でないものが選ばれました。

私は、職業奉仕がロータリー思想そのものであると思っております。しかし、RIの考えるロータリー思想では異論があるようです。ロータリーは「一業種一人」という大原則のもとに相互扶助と親睦を基本に生まれました。本来のロータリーは職業奉仕を基礎とし、そのうえに社会奉仕や国際奉仕や昨年付け加えられた新世代奉仕が存在するものです。むやみやたらに社会奉仕事業を考え、黙って寄付さえすれば、それがロータリー活動そのものであるという風潮が昨今のロータリーにはあるのではないかと考えております。倫理無き人間がいかにして職業社会にまた、一般社会に倫理を提唱することができるかです。ここに私が思う本来のロータリーの姿があり、職業奉仕の基礎でもあると思っております。

「職業奉仕がロータリーの命」とは言われますが、私は命ではなく「ひとつの思想」とは思っております。ロータリーには奉仕原理である“SERVICE ABOVE SELF”と職業奉仕実践理論原理である“HE PROFITS MOST WHO SERVES BEST”という二大思想が存在します。その他にも“SERVICE NOT SELF”があります。もし命としたならば、命は一つですから職業奉仕思想が廃止されたならばロータリーそのものも亡くなってしまふということになります。ロータリーには色々な思想が混在しております。決して一枚岩ではありません。しかし、それぞれの思想はお互いの思想を排除することなく、認め合い、お互いが学びあう姿勢が重要です。

“公共奉仕”即ちロータリー第一モットーである“SERVICE ABOVE SELF”超我の奉仕によってロータリーは大発展し世界最大の奉仕団体となりました。もし、職業奉仕だけのロータリーであったとしたならば、結果は違っていたのかもしれませんが。では、超我の奉仕とは何か。「自己に優先して奉仕を・奉仕第一、自己第二」。この言葉を短絡的に解釈すれば、「自分の仕事ができなくて何が奉仕だよ」と誤解される場合が多いのですが、私は「自分というものが一番大切なものです、しかし、それ以上に社会的弱者に対して愛情をもって自分以上に大切にし、援助しなければならない」と理解しております。これが現代ロータリーの主流である「奉仕の理想」です。しかし私は、この言葉を本来のロータリー思想である職業奉仕思想から言うと、「自分というものが一番大切なものです、しかし、それ以上にお客様を大切にしなければならない」と私はこの言葉を解釈しております。職業奉仕を基礎とするならば、社会奉仕や新世代奉仕、国際奉仕はそれの応用問題ではないでしょうか。

「職業奉仕も社会奉仕もロータリークラブの命であり、あえて奉仕内容を選別し議論することは無意味である」という意見もありますが、もしそうだとしたならば「同じ命ならば、難解な職業奉仕を社会奉仕の中に入れてしまったらどうか、社会奉仕だけで良いのではないか」という誤解が生まれます。

私は「奉仕による受益者が誰であるか」という説明で、ロータリーにおける社会奉仕と、職業奉仕とを明確に選別することにより、両者は「職業奉仕を基礎とする、一対の奉仕活動である」ことを分かってもらわなくてはならないと思っております。

では私にとってロータリーの命とは何か。それは「人間の倫理を持って奉仕に徹する」。これこそ私が信じる「ロータリーの命」とは思っております。

また、職業奉仕はロータリーにおける一つの思想であり強制はできないのであって、宗教ではありません。実践するのもしないのもロータリアン個人の考えです。但し、知らずして語る無かれであり、まずは知って頂き、理解して頂きたいのが私の願望です。次に、「ロータリークラブは職業奉仕が中心であり、この点が他団体との違いである」

という意見に対して、私は「他団体に無い特色がロータリーの職業奉仕である」と考えております。国際奉仕や社会奉仕こそが「ロータリーの命」と考える人がいても、それは間違いではありません。ロータリーは色々な思想の塊です。職業奉仕は「大地」です、そしてその上に社会奉仕や国際奉仕、クラブ奉仕、新世代奉仕が樹木として育っていきます。大地に水をやらなくては何も育ちません。そして、その水をやる人間も必要ではないでしょうか。ロータリーのことを批判される方が、「そんな難しい話を聞いて奉仕をするよりも、単にお金を寄付し、ボランティア活動さえしていればいいのだ」ということを言われたことがあります。

何故、ロータリーは毎週例会を開くのか、なぜイエスからはじまるのか、寄付をしなければならないのか、ロータリーの職業奉仕思想、社会奉仕思想を知らずに活動されている方が多いように思えます。ロータリーはむやみやたらに社会奉仕や寄付をするものではありません。今、全国的にロータリークラブが人材不足となり、職業奉仕思想、社会奉仕思想を知らずに会長になって、単に「なかよしクラブ」になっているクラブが多く、それが会員減少につながっていると聞きました。そのためにRLIとかリーダー研修の機会もできて私の知り合いも行っています。ロータリーの意義が忘れ去られようとしております。今こそロータリーのことを学び、その原点に立ち戻らなければならないのではないのでしょうか。



－ 技術革新と職業奉仕 －

松戸中央ロータリークラブ
福澤 昭弘

松戸中央ロータリークラブでは、2007-08年度の職業奉仕委員会で【文集「私の職業奉仕」】を発刊しました。当時職業奉仕委員長でありました青山健彦パスト会長は、発刊の経緯について次のように述べています。

『職業奉仕の思想は、ポール・ハリスと3人の仲間たちの集まりを原点に、その後、ロータリークラブの発展と共に先人たちによって磨き上げられて、今日に受け継がれてきました。そこで私は、本年度職業奉仕委員会の委員長に任命されたこの機会に、当クラブの会員がそれぞれにこの職業奉仕の考えを意識し実践していけるプログラムを企画実行したいと考え、（中略）これを本年度活動計画の第一とさせて戴きました。そんな折も折、当クラブ昨年度職業奉仕委員長から引き継ぎを受けた資料の中に、成田ロータリークラブが創立45周年記念誌として発刊された「私の職業奉仕」という文集がありました。私はこれを読ませて戴いて、「これだ。」と思いました。原稿を書くと言うことは、自分の考えを振り返り深化させるのに最適な道具と思い付いたのです。』

そして、青山職業奉仕委員長は次のように続けています。『「私の」をつけた理由は、それぞれご自分の職業を通じて職業奉仕を考えてもらうことに十分な意義があると考えたからです。会員の皆様がそれぞれご自分の事業を発展させてこられたのは、顧客や取引先の皆様からの支持や信頼関係があつてのことだと思えます。そのように周囲の方を惹きつけてこられた皆さんの魅力こそが職業奉仕の淵源

(えんげん) に繋がるものだと思うからです。(後略)』

その結果、41名の会員から寄せられた、「私の」職業奉仕観がこの【文集「私の職業奉仕」】に収められたわけです。今改めて読み返してみても、会員の皆さまの生き様の素晴らしさに感服するばかりです。

さて、今年度の活動計画書を見ると、私は松戸中央ロータリーに入会させて戴いて、どうやら12年目を迎えているようです。今思えば、あっと言う間の12年だったと思います。その間、それなりにロータリー活動を行ってきたつもりです。そして、今年度の会長より職業奉仕委員長に指名された時には、正直申し上げてさほどの使命感も感じることはありませんでした。一番大きな理由は、入会してから今までに、職業奉仕ということに真剣に向かい合ったことが無かったからだと思います。と言うよりも、職業奉仕という理念を理解し実践するには、私の人間としての器がまだ足りないのだと思います。そう言ったわけで、この年度を可もなく不可もなく程度に終わらせようと思っていましたところ、幸か不幸か「職業奉仕に生きること… 貴方にとっての職業奉仕」と言うテーマで、情報研究会が開かれることになったわけです。先程申し上げたように、何も深く考えていない私にはクラブの代表として、このテーマで発表するには荷が重すぎるわけですが、そうは言っても、それでは話が前に進みませんので出来るだけのことはしたいと思います。

私の職業分類は印刷業です。印刷と一口に申しましても様々ありますが、私の所は、紙に印刷するのが主な業務です。50年程前に両親が信州の田舎から上京して小さな会社を興したのが始まりです。お陰様でお客様に恵まれ、今まで何とかやってこられたのだと思います。皆様に大変感謝しております。職業奉仕的に申し上げますと、事業及び専門職務の研鑽と、業界の道徳的水準の向上に日々努める事で、社会貢献をした結果であるとも言える事なのでしょう。

しかしながら、このところ印刷業界も大きな変化の渦中にあります。ルネサンス期における情報伝播の速度を飛躍的に向上させたと言われている、グーテンベルクの活版印刷の発明以来の変化だと思えます。それは、ここにおいでの方の皆さんの周りでも起きていることと思えますが、パソコン等のデジタル機器の普及による電子化の波と、インターネット網の急速な発展による情報検索の手法が、世界規模で加速度的に進んでいることです。本日はセミナーではありませんので詳しい技術的なことは割愛致しますが、Google、Yahoo!によるPPC広告(検索連動型広告)や、Twitter、Facebook等のソーシャルネットワークサービス等の台頭により、皆さまの業界の集客方法一つとっても、一昔前の紙媒体のようなアナログ的な情報発信から、デジタルデータによる情報伝播へと大きくシフトしていると言えないでしょうか? インターネットの世界では新しい技術が毎日のように更新され、ちょっと目を離すと何が何だか分からない時代になってしまいました。残念ながら、この大きな流れを変えることは出来ないと思えます。と言うか、個人的な意見でたいへん恐縮ですが、この世界観を理解できないと、中長期的にはどのような業界においてもビジネス上では苦戦してしまうのではないかとさえ考えています。

例えば、皆さまの多くは既にパソコンはもとより、スマートフォンをお持ちなのではないでしょうか? 今お持ちでなくても、次の機種変更では、フィーチャー・フォン(feature phone)、いわゆるガラケーの購入はまず難しくなると思えます。各社から発表される新機種のほとんどがスマートフォンであることを見れば、電話会社がいかにスマートフォンの普及に本腰を入れているかが分かります。ここでは、スマートフォンの善し悪しを申し上げているのではなく、私達の生活の身近な部分でインターネットと

いうデジタル世界と既に結びついて、それが知らぬ間にどんどん普及していると言う事を申し上げたいわけです。私が申し上げたいのは、そこには多くの新しいタイプの情報発信者が次々と現れて、新しい顧客価値を提供し市場をコントロールしようと目論んでいます。情報をコントロール出来る立場にある者が、その世界を制して来たことは時代が証明しています。印刷業界ではなくても、目を離せない技術革新ではないでしょうか。

勿論、印刷業界人としての希望的観測も含めて申し上げますが、紙媒体が無くなるとは全く思っておりません。それどころか、そこにチャンスがあるとさえ考えています。デジタルな情報源と、アナログな情報源の融合を実現し、新しい顧客価値をお客様に提案することが出来れば、我々の新しい活路がそこにあると考えています。

これが職業奉仕的な話なのかどうかも分かりませんが、いろいろと偉そうに申し上げてきましたが、時代の変化と共に常に新しい分野に挑戦し、分かりづらい世界観を分かり易くお客さまに提供することは何よりも大切なことと思いますし、我々業界の先輩方もそうして時代を切り抜けてきたのだと思います。これから困難なことも多いでしょうが、やりがいもあるのだと思いますし挑戦し続けなければならないのだと思います。

さて、まったく話は変わりますが、今年度の当クラブの職業奉仕委員会の活動計画についても少し申し上げたいと思います。クラブ会員の皆さまの力を借りながら、継続的に支援させて戴いている市内の児童養護施設の子供たちに、将来の職業選択に役に立つような機会を提供したいと考えています。なるべく多くの会員の皆さまの生の声を子供たちに届け、それによって子供たちの将来の職業観の指針になればと言う思いからです。他の委員会の皆さまとも協力させて貰いながら、今後の理事会等を通して具体的な実施計画を練ってみたいと考えています。

随分と分不相応で生意気な意見を申し上げてきましたが、実は私にとっての大きな収穫は、この「貴方にとっての職業奉仕」という名の下に、ロータリアンの皆様と話し合いが持てたことです。これから私がどのような生き様で生きていくべきか、またこんな私にどのような社会貢献が出来るのかという問題に対して、人生の先輩、経営者の先輩から、有益なアドバイスや、心温まる激励を戴いたことです。お陰様で、これからも皆さまに負けなように頑張らなければと感じられたことです。ここに改めて皆様に感謝申し上げます。





－ 私の職業奉仕 －

松戸西ロータリークラブ
松尾 雄二

私の職業奉仕 ▶ 商いを通じてお客様との絆づくり「感動ありて、商いあり」
＜同じやるのならお客様に意外性の感動を与える。何事も、お客様に対し「先にしてあげる」こと、まず出す事が肝心、実りは自ずと後から付いてくる考え方＞

①お客様に「先に」何かをしてあげる。

お客様が何を望んでおられるのか、どんなことをして欲しいと願っておられるのか、何に困っておられるのか、それを感じ取り言われる前にそれをして差し上げる
感動はファンになり、新しいお客さまを紹介していただける。

②感性を養う。

お客様の望まれることをあらかじめ察知する力を得る、日頃から「感性」を養う努力をする、常にお客様に気を使い関心を持つと努めること。次の事を自分から「先に」実行する。

曲眉 (きょくび)	先に、お客様を見つめる。
豊頬 (ほうきょう)	先に、お客様に微笑みかける。
大耳 (たいじ)	先に、お客様の声を聞く。
清声 (せいせい)	先に、お客様に語りかける。
鞭体 (べんたい)	先に、お客様の為に動く。



③逆ありて、誠 (まこと) あり。

先に、何かをしてあげることで、お客様が感動されるのは、「意外性」を感じられる、話題は口から口へ広まっていく。

④誠 (まこと) ありて、感動あり。

お客様に接するときの対応、姿勢に「誠」を持って一生懸命尽くす姿に、お客様も謙虚で、感謝に満ちた心で見ると。謙虚で、感謝ができる人になる。謙虚とは、お客様に代わって、私がさせていただきますの心を持つこと。感謝とは、お客様のおかげで、ありがとうございますの言葉が言える。この二つの言葉が、どんな場合も出てくるようにすれば、そこにお客様に感動を与える原点がある。

⑤人間力を養う。

日々、お客様と接する仕事でいちばん大切なのは「人間力」、何故ならばお客様も人間だから。相手に対して、心から感謝ができること、謙虚さを持つこと。その力によって、商品力、サービス力、雰囲気力も、自ずと強靭に備わり、その結果、同じ人間同士として、相手の心に感動を与えるようになる。常連客になっていただき、ファンとして新しいお客様も紹介していただけるようになり、売り上げ、利益にも繋がることになる。

～全体討論会～

テーブル1

(参加者)

2790地区職業奉仕委員会 海寶勘一 委員長

川上伸夫 ガバナー補佐

テーブルリーダー：伊原清良 (松戸 RC 食品加工業 17年)

メンバー：松戸 茂 (松戸中央RC 葬儀業 36年)

崎谷延好 (松戸北 RC 楽器販売 17年)

大川吉美 (松戸 RC 洋菓子製造販売 11年)

杉山由祥 (松戸西 RC 行政書士 1年)

林 希一 (松戸 RC 不動産管理 6年)

高橋 繁 (松戸西 RC ビルディング貸付 4年)

書記：松本幸夫 (松戸 RC 印刷 6年)

伊原テーブルリーダーが質問をし、メンバーが応えるというスタイルで討論は進んでいった。

＜伊原＞職業を通じて利益を得るということについてどう考えますか？

＜崎谷＞「サービス」と「奉仕」の解釈に日頃から悩んでいる。「サービス」を「奉仕」と訳したことに無理があるのでないか。当然、サービスは「有償」でも構わないと考える

＜大川＞利益を出して法人税を納めることも職業奉仕だと思う。利益を出して300人以上いる社員を永く幸せにすることも職業奉仕だと思う。

＜杉山＞「奉仕」＝ボランティアではない。ボランティアは見返りを求めないものであるが、ロータリーの「サービス」は当然に利益を求めてよいと思う。

＜伊原＞ロータリークラブに入会した動機は？

＜杉山＞人とのつながりや懇親を求めて入会した。

＜井原＞職業奉仕についてどう思うか？

＜崎谷＞単に良識ある仕事をすればよいというだけならRCにいる必要はない。もっと深いものがあるのだと思う。

＜松戸＞昔、地区の職業奉仕委員をやった時に、「出席と職業奉仕は個人奉仕である。他人に助けってもらうことはできないものだ」と教わった記憶がある。したがって、個人的な職業奉仕について地区やクラブが関与したり、皆でディスカッションしたりすること自体理解できない。

私は、お客様に「ありがとう」と言ってもらえることが職業奉仕だと思っている。

＜井原＞例会についてどう思うか？

＜林＞例会の時、同じテーブルの異業種の方々から様々なことを吸収させていただいている。

＜高橋＞私は普段一人で仕事をしているので、こもりがちになることが多い。ロータリークラブには多種多様の職業の方がいるので、そのような方々と例会で話をすることは大変勉強になる。

＜松本＞卓話から学ぶことがたくさんあるので、卓話はよく聞くようにしている。

<川上ガバナー補佐>若い会員と例会で会ったり、一緒にクラブ活動をすることは元気が出る。会の運営はなるべく若い人たちに任せるようにしている。会員一人ひとりがお互い良いところを見つめ合い、相手を認め合うことを大切にすべきであると思う。そして他人から受けたことに対してどのようにお礼返しをしていくかが大切である。私達が受ける利益はお客様からの「ありがとう、頑張ってるね」という感謝の気持ちであると考えている。

<崎谷>社会奉仕、職業奉仕、国際奉仕などなど色々あるが、私にとっては「奉仕」に区別がなく、分ける必要性を感じない。私自身は行動ありきの人間なので、〇〇奉仕とは、などを議論することに馴染めない。

<杉山>クラブの先輩方に「職業奉仕」について聞いても、「難解なものだよ」という答えが返ってくる。ロータリークラブのおもしろいところは、卓話であり、お互いの職業を深く知ることができるということである。いわゆる「気づき」である。30代の私は、縦横のつながりが薄いので、人とのつながりを築けるロータリークラブはとても魅力的である。

<伊原>「気づき」についてどう思う？

<大川>卓話では様々な職業の方の話が聞けるので気づきが多い。特に松戸クラブの土屋さんの考え方には感銘を受けること、学ぶことが多い。職業奉仕を理解することは難しいが、ロータリーで色々なことを学んで、今後の人生に活かしたい。皆がそれぞれ正しい仕事を一生懸命に行えば素晴らしい社会になる。仕事を永く継続すること自体が職業奉仕なのだと思う。

<林>JCを途中で退会してしまったので、今、ロータリーで当時の仲間と再会できていることがうれしい。入会した年に創立50周年記念式典を経験した。その準備の時に大先輩が手伝ってくれた。年の差のない交流に「入会して良かった」と感じた。街で先輩方に会った時も声をかけていただき、とてもうれしい。

<伊原>他に何か言いたいことは？

<松戸>36年前の入会当時は、「とにかく出席しろ」と言われ続けた。本日、松戸中央RCから出席しているのは34名中20名であり7割にも満たない。私のクラブは出席率がいつも7割を切っているからよく文句を言うが、ロータリーはとにかく出席しなければダメである。

<伊原>時間ですのでまとめます。私は「例会に行ったらあの人に会える」といつも思う。40代の人と80代の人が交流できる例会は素晴らしい。ロータリーの良いところは、年の差を超えて会話ができるということだ。若い人を受け入れて育てることが、楽しいロータリーライフにつながっていくのだと思う。本日はありがとうございました。



テーブル2

報告書

テーブルリーダー 待山克典（松戸RC）

メンバー 並木幸雄（松戸北RC） 渡辺孝治（松戸西RC） 細田昌男（松戸西RC）
森谷博（松戸中央RC） 書記 山田達郎（松戸RC）

1. 自己紹介（氏名、所属クラブ、職業分類）

不動産管理、税理士、司法書士、石油製品販売、自動車販売など

2. クラブで取り組む職業奉仕

- ・例会で毎回数名の職業紹介を行っている。（松戸西）
- ・月1回のフォーラムで例会中に職業を語る時間がある。（松戸北）
- ・メンバーの卓話で触れる他、年1回の健康診断を行っている。（松戸中央）
- ・研修委員会を開催し、年に2～6回程度、メンバー有志が集まって職業奉仕を中心にしたテーマでディスカッションを行っている。（松戸）

3. あなたにとっての職業奉仕

- ・ガソリンスタンドで体験学習として中学生を中心に年に5～7回ほど受け入れて職業体験の機会を提供している。実際にノズルを握って給油を行うほか、普段見れないタンクローリーの中をのぞいたり体験をしてもらっている。お礼状も頂く。
- ・クラブ研修委員長の役目を頂いて考えるようになった。自分の中では学生時代から読んでいた論語の中で「利益」をどう捉えるかというところにヒントがあると感じている。それは言い換えれば、「社会的責任を果たすこと」にあるのではないか。
- ・土屋パストガバナーは職業奉仕のことを商売繁盛のコツと教えてくれている。
- ・石井パストガバナーのお話にあったロータリーの親睦にヒントがあると思う。
- ・パストガバナーで「活動できない人は寄付すれば良い。」という意見もあった。
- ・クラブ奉仕、社会奉仕、国際奉仕に比べ、対象がはっきりしないのが難しい。
- ・対象は自分ではないかと思う。あえて言えば立派な人になろうというような説教のようでどうも面白くない。ロータリーを続けられる人は、社会からまともな人と評価されているとも言える。
- ・得居ガバナーのエピソード（病院の医療スタッフの職業奉仕について）からも当たり前のことが職業奉仕ではない。
- ・感動させられたとすればそれが職業奉仕ではないか。
- ・華々しくない、感動の感じられないところにも職業として一流があるのではないか。

4. まとめ

「職業奉仕」は理論化、概念化すると難しい。「職業に対する誠実な生き方」と言えるのではないか。



テーブル3

リーダー 幸松 康彦 書記 谷口 雅樹

例会に出席し、日々の会話の中で得た事を実践するようにしています。

入会して間のないので、職業奉仕の言葉に違和感がある。

入会前に情報提供を受けていたのですが、入会当初、ロータリー用語の理解ができず、何の団体なのかよくわからなかった。

職業奉仕とは、社会に必要とされている職業を通じて貢献し、ロータリアンにも正当な実益があること。

クラブでは、健康診断を長く続けている。職業奉仕するための基盤である健康を維持させる事が大事であるという考え方から行っています。

自由競争社会の中で、利益のみを追求しないための防壁として、例会での親交が役立っているのでは？

定款やクラブ細則に書いてあることが職業奉仕ですが、難しく考えず、正しい商売を行うという事で十分ではないか？

ごまかしや嘘をついてまで商売をしてはいけない

入会時は一業種一名でしたが、現在では複数名参加してるクラブも珍しくありません。その影響でしょうか、各業種の代表としての自覚や責任感が薄れてしまっているのではないのでしょうか？

ボランティア団体に思える事も多々あり、クラブによつての温度差が大きいのは何故だろうと思う事があります。

歴史的な背景を考えると、日本のロータリーは独自の道を歩んでいると思う。

職業奉仕を勉強するために年八回、クラブ研修委員会が担当して勉強会を行っている。

歴の長い会員にとっては、当り前の事だとしても、会長挨拶或いは例会の中でロータリーに関する考え方の紹介などあれば、新会員は助かると思います。

お客様に感動していただける事を主眼において対応するようにしています。それが職業奉仕だとも思っています。

反省、検証をする事で成長し、職業を通じて社会に役にたつ事が職業奉仕だと考えていますが、今一つははっきりと捉えられていないようにも思います。

ユダヤ哲学にあるタルムードの考え方というのも、職業奉仕に通じる考え方のように思えたのですが、理論・理念がしっかりしていないと、正しい実践はできないのではないか？



テーブル4

リーダー 岡本 克己 書記 渡邊 明週

入会して四年目ですが、未だに職業奉仕の意味はよく解らない。
入会当初、ロータリーは背広を着た宗教団体だと思った。
職業奉仕はロータリアンに実益があること。
不動産業をしているが、土地を動かし、マイホームを動かし収益をもらって納税する事が職業奉仕。資本主義の最たる職業に着いている
不動産とは命の次に大事な物、その世話係をしている事が職業奉仕
クラブ細則に書いてあることが職業奉仕
医者も利益を求めてはいけぬ職業、一般の会社とは感覚が違う
嘘をついてまで商売をしてはいけぬ
入会時は一業種一名、ロータリーに入会して、職業奉仕ができるのかと思った
こちらから最後にお客様に「ありがとうございました」と言える事が職業奉仕
「ありがとうございました」と言えることが良質のサービス
同じ商品を安く売るとか、定価で売るとか、付加価値を付けて定価以上で売るとか？
いっぱい稼いで、いっぱい納税して優良市民になりたい
入会前、ロータリーはゴミ箱を寄付する団体と思った。
会社を立て直すために、四つのテストが出来た。
真実でなかった、公平でなかった、悪意を持って商売をしていた、一部の人のために商売をしていた。四つのテストとは反対の商売をしていて、社会的信用を失い潰れそうになった会社を再建するためにできた四つのテストが職業奉仕の基になっている。
入会時、職業奉仕という言葉はスムーズに受け入れられなかった
ロータリーは元々アメリカでできた物、日本とは倫理観がちがうのでは？近江商人の考えが職業奉仕に近いのではないか
職業奉仕を勉強するために年八回、インフォーマルミーティングを行っている。
「今さら聞けないロータリー」みたいな題です
クラブの先輩、後輩からも参考になることが多く、刺激をもらっている
異業種の会なので自慢話は良いこと、自分を縛ることにもなるので
親子兄弟のような関係で情報交換会のような集まりを随時行っている
ロータリアンは我が強いので、白熱した論議をしている
会社では毎朝、般若信教を唱えている。徳の道よりは、損の道を行け
自分に帰ってくる事、自己研鑽に繋がるのが社会奉仕
お客さんに満足を与えて利益を上げていくのが職業奉仕
社会奉仕と職業奉仕の線を引く事はない、誠意をもってお客様に満足を与えること
ロータリーは奉仕する団体ではなくて、奉仕する人の団体



テーブル5

—自己紹介—

高橋 修さん：テーブルリーダー、北クラブ、10年目、一昨年会長、8月9日の職業奉仕委員長セミナーに参加、不動産管理業10棟136戸と駐車場

高橋竜一さん：東クラブ、幹事、7年目、主に病院向けのソフトウェア受諾開発業、IT業界

三浦幹敏さん：西クラブ、16年目、一昨年会長、米山カウンセラー、創業26年商業写真、主に葬儀の遺影や葬儀式中の写真など

山野井章さん：西クラブ、4年目、保険代理店、損保・生保の両立を目指す、社員13名

三国大吾さん：松戸クラブ、2年目、歯科医師、東関東に15ヶ所の診療所、社員50名、アルバイト150名

洩上啓太さん：北クラブ、2年目、石材販売、葬儀社

—職業奉仕についての考え—

高橋竜一さん：例会でクラブ奉仕の中で自己研鑽してそれを仕事を通じて社会に還元する。

三浦幹敏さん：26年前に10年勤めた写真店を退職して独立、「葬儀」に特化した為に人前での自己紹介で引かれてしまう事もあったが、入社2年目の娘さんが友人達にしっかりと仕事の説明を気後れ無くしているのを見て、仕事に対する誇りと職業に対する自信をしっかりと持っていると感じた、よって仕事に対する誇りを持ち、自身を持って言える事が職業奉仕に繋がって行くと考えます。

山野井章さん：普通とロータリーの職業奉仕の区別が解り難い、世の為人の為に尽くす事が売り上げとなる、仕組み作りに関してもトータルでの提案や個々ではなく組織丸ごとの提案をする事など回りに対しての目配りが必要、売り上げで苦勞するのは奉仕（仕組み）が違っているからである。

三国大吾さん：歯科医師会などご業界全体が潤うのはおかしい、と思い従業員中心に考えていたが、奉仕と言う観点から色々考えるとやはり「団体」を意識して奉仕に繋げる事考え初めております。

洩上啓太さん：私もやはり2年目なので勉強不足もありよく解りませんが、先ずは自身の職業を掘り下げ充実させてユーザーの皆様にしっかりと満足や感謝の言葉を頂けるようになる事、と同時に従業員やその家族、取引業者も幸せになる事が第一段階でさらにその先は「地域社会に還元」することが社会奉仕と考えます。

高橋 修さん：自社で管理しているマンションの空き部屋を震災の時二次避難民二家族に無料で貸し出した事、出来る範囲で自分の職業を通じて行うのが奉仕。

高橋竜一さん：ボランティアの奉仕は無償、ロータリーの奉仕は金銭を稼ぎそして恩返し。

松田泰長さん：結論がそれぞれ違うのは当然です。

三浦幹敏さん：ある問い合わせで、写真の修整の依頼でした、それは震災でドロドロのまま送られてくる写真の修整です、OKを出すととんでもない量の写真が送られて来ると聞き断ってしまった。

高橋 修さん：専門分野での奉仕が「職業奉仕ではないか？」お金をもうけるのは当然で、貰わないとボランティアになってしまいます。

—社員教育について—

三国大吾さん：新卒の医師たちが沢山技術研修の為に入って来る、最初は技術指導だけで良いと考えていたが、患者さんとの接し方を見て、「心」の指導も必要と気づき行っている。

山野井章さん：企業理念があり、週一回、毎月、半日程度のミーティングにて、全員で確認し合っている、ズレたり、ブレたりを見つけたら一切譲らずに修正する。

三浦幹敏さん：10人の社員、社訓は特に無いが、目に付いたその時に個々や全体に注意する様にしている。

高橋竜一さん：理念はあります、沢山利益が取れそうな時ほど適正な感覚で商売する、「その時だけ儲ければ」はあり得ない事を意識させている。

渊上啓太さん：弊社も一応「創業の精神」があります、自己実現の方法として、内容を説明し従業員に徹底させてます。

高橋 修さん：「逃げるな強く打たれ、嘘をつくな！！」また「数字に強くなれ！」さらに「自起、自発」自分で考え自分で立ち上がり、自分で行う！この言葉を心に日々精進しております。

—クラブ内（例会時）での自己研鑽について—

北クラブ＝月一回の全員卓話

西クラブ＝各業界での卓話の問題点などを発表してそれに他の会員が答える、また、時には一人五分程度のスピーチを数人行う。

松田泰長さん：研修会は行ってますか？＝全員で書く御代を発表させる事で調べる機械が生まれ、深く掘り下げて知識が身につくので是非例会で試して下さい。



テーブル6

・自己紹介

鈴木さん：北クラブ 僧侶、幼稚園経営（テーブルリーダー）

伊師さん：北クラブ 事務用品販売

佐川さん：松戸クラブ オフィス家具 製造 販売

中山さん：松戸クラブ 小売業

吉田さん：西クラブ 社会保険労務士 団体職員

山本さん：西クラブ 陶磁器販売

織田さん：北クラブ 会計事務所

・職業奉仕に対する活動

松戸クラブ：新人の方、また転勤などで入会された方には参加する職業奉仕の意味や参加する意義を十分理解して貰えるように、2ヶ月に一回位のペースで1～2時間の研修会や勉強会を実施

西クラブ：特に職業奉仕月々間には、職業奉仕がローターの基本であり特長であることから、米山記念会館への訪問などを通じての意識づけ

北クラブ：今期は、月一回のペースで例会終了後に今回の様なフォーラム形式でのディスカッションを実施

・綱領について

松戸クラブ：文言を覚えるより内容を理解する事がより重要ではないでしょうか

西クラブ：綱領は、今まで軽視しがちだったので、より内容を理解する為の活動を行いたい

北クラブ：会員名簿を作成し綱領を掲載、なにげないところで熟知出来るよう図ってます
その後、全員で綱領の確認

・四つのテスト

松戸クラブ：四つのテストの唱和、みんなで歌ったりする

西クラブ：各個人の認識の向上、入会時に額に入れた四つのテストを渡し事務所などに掲示して貰う。

北クラブ：会報などにいつも四つのテストを掲載、日々意識する様にしていく
四つのテストは、実際全ての仕事に通じるものなので、いつも実行しているかを振り返る事が大事ではないでしょうか・会員同士での自己研鑽と切磋琢磨

松戸クラブ：研修会、委員会活動を活発に行い、研修会では、参加者全員が自分の意見を発表するのが基本で、またこの実施は必ず昼間に行い、全員がローター歴に関係なく平等であるという事で行ってます。また、昼間のフォーラムミーティングと夜間の懇親会のファイアミーティングは、完全に区別してバランスよく実施しています。

西クラブ：ローターの仕事に関しては“NO”は無し、この精神で何事にも取り組んでいく、もちろんローター以外においても、これを基本で行う事が自己研鑽につながる

北クラブ：委員会活動など通じて、全員の意識の向上を図る、その為にも常日頃からみんなが、意見を交わす事が大事、特に今季はローターのいろいろな活動に関してのフォーラムミーティングを出来るだけ多く実施していく・従業員教育と仕事上での考え方

中山さん：近江商人の遺訓「買手よし、売手よし、世間よし」・・・ただ儲けだけを求めるのでは無く、買って頂くお客様、売って頂く業者様、近隣世間の方、みんなが、満足し納得できる商売をしているかを、いつも考えながら行ってます。

吉田さん：仕事が専門職なので、倫理規定はありますが、仰々しい社訓や社是は特に作っていません、そういった物は文字にするのでは無く、日々の自分個人の動きや言動、考え方をどれだけみんなに理解して貰えるかだと思います、家庭で

の教育と同じで子は親の背中を見て大きくなるものですから。

伊師さん「おかげさま」という言葉に、いろいろな意味が含まれているのではないのでしょうか、なにかの縁がある方全ての方にお世話になっている、助けて頂いている、感謝しなければならないこういった事がすべて「おかげさま」という言葉に含まれているように思いますまた、「奉仕」という言葉についても西洋と日本では、違う様に思います、日本の場合は、奉仕＝施しといった考えですが、西洋の場合は自分の能力を最大限に生かし生活仕事をする事が、天意に基づく立派な「奉仕」ではないか、との考え方のように思えます、ローターの職業奉仕もこれに近いのではないのでしょうか。

織田さん：お客様の財布の中身を見せて下さいといった仕事ですので、いつも仕事をする時には、そのお客様の会社の一員になって取り組む様にしています。

・ローターンとして

中山さん：「人のふりみて、我がふりなおせ」、やはりローターの集まりは経営者の集まりですので、なかなか他人の忠告や意見は聞けないものかと思えます、その時に驕らず、他人の行いをよく見て、自分の行いに間違いが無いかと反省する事が、大事かと思えます、研修会も大事ですが、それに臨む際には自己を磨くという思いで臨まないという意味が無いのではないのでしょうか。

・合同例会について

全員　　：普段、会うことの無い多くのローターンと会え、学べる事は非常に有意義であると思えます。



テーブル7

テーブルマスター 福渾昭弘 (松戸中央ロータリー)
書 記 佐々木恒司 (松戸中央ロータリー)
参加者人数 6名
討論テーマ [職業奉仕に生きること]



(前 半)

現在の職業に就くに至った動機の方は経緯を出席者から語ってもらう。

- ① 若い頃の夢はミュージシャンであったが、親の代から製パン業であったため家業を継いだ。
- ② 日々現金収入が入る職業のサービス業をやりたかった。
- ③ 家業が代々印刷業であったために必然的に継がざるを得なかった。
- ④ 肉体労働ではなくデスクワークの仕事がしたくて、学閥が無く能力主義の証券会社を選んだ。
- ⑤ 地域の急速な都市化に伴い宅地造成が進み白然に不動産業を開業。
- ⑥ 複合素材の開発に興味があり、結果的に今の業種に至っている。

(後 半)

ロータリアンとして職業奉仕に対する考え方について、どう考えるか？

- ① 情報化の世界に有って客なり周囲の人が望む・期待するもの（サービス）を先取りし、それをどの様な形や内容で提供できるのか自分の職業の中で考えている。
- ② お金を稼ぐ→人を稼ぐ、人と人との接点を探ることが事業拡大に繋がり結果、地域なり社会に貢献していると感じる。
- ③ 不動産業は、住居や用地の提供、紹介を通じて顧客要望や希望を可能な限り満たせる案件を提供することで人間にとって最も重要な生活の安心と安全を得る為のサービス（職業奉仕）を提供していると自負している。
- ④ 小中学生にパンの製造過程を体験学習できる課外授業を実施しているが、そこから自らの職業を再発見し活力が生れてきた。
- ⑤ 証券業界でも小中学生に証券会社を社会体験学習として体験してもらい、株の取引、金融、投資について解り易く子ども達に説明し、紹介することで自分の仕事を再発見することができて、寧ろ感謝している。
- ⑥ 情報の開示、提供がロータリーの職業奉仕の一環と捉えている。それにより、孤独死、虐待などが未然に防げることがある。
- ⑦ ロータリー言う「職業奉仕」はロータリアンとしてのイメージと合致しないように思える。それは奉仕と言う言葉が適切でない。
職業奉仕より職業貢献 と表現した方が適切ではないか。

以上、7番テーブルで討議・討論された内容について箇条書きで纏めさせて戴きましたので報告いたします。

若干討議すべき方向がズレていたりしていましたが、それはお許し願います。取急ぎ報告申し上げます。

テーブル8

テーブルリーダー 松戸西RC 杉浦昌則

先ずはじめにご報告させて頂く事態が生じました。

第8テーブルでは私杉浦がリーダー、当クラブの小菅壽和会員が書記という布陣で討論会を開始致しました。私の左隣りで書記として盛んにメモをとる小菅会員の姿に、私は記録及び報告書の作成は全幅の信頼をよせて任せきり、私自身はテーブルの皆様のお話を聞き出すことに気持ちを専念致しておりました

その翌日の夕刻小菅会員が外出先で倒れまして、それ以来ご家族以外は入院先の面会も叶わず、したがって今回の書記としての記録も不明となりました。

そのような状況であることをご理解いただきまして、代わりに私がリーダーとしての視点からご報告をさせていただきますので、何とぞご諒承のほどお願い申し上げます。

第10テーブルでは私の左隣りに小菅書記、そして左列に中央RCの五郎畑パストガバナー補佐、向かいの列に東RCの山岡会長エレクトを迎えて、総勢8人の構成でスタート致しました。

合同例会が開始される12時30分前の12時から「テーブルリーダーの心得」を、地区職業奉仕の海寶勘一委員長始め、各委員の皆様からリーダーに対し丁寧なご説明がなされました。食事をしながらの、和やかな雰囲気のうち終始いたしました。

今回のテーブルディスカッションの主旨は、出席者会員から「職業奉仕の具体例」を話し合っ頂くことにあります。それについて先ほどの委員長からのご説明で、「双方意見交流のヒント」として前半5項目、後半5項目の参考例が提示されていました。

その中で私は次の4項目について焦点を絞らせて頂きました。

前半2の「クラブでの職業奉仕委員会活動について紹介し合う」

前半4の「クラブでは四つのテストをどのように実施し活用させているか」

後半2の「従業員や社員教育はどのようにして行っているか」

後半3の「社是や社訓の紹介とその意味とすること」

大きく分けて、前半は各クラブでの活動実態、後半は各自職場での実践報告を聞きたいと思いました。全体としての印象は皆様さすがロータリアンといえますか、職業奉仕に対する意識と関心がとても高いように見受けられました。各クラブでの伝統的職業奉仕活動を継続しておられます。ただ「4つのテスト」の唱和・掲示等はまだその域に達していないとのお話でした。職場での職業奉仕実践では、特に五郎畑パストガバナー補佐の、ロータリーの職業奉仕理念を実際の従業員教育と活動に組み込まれて、成果をあげられていることに感心させられました。

以上、大変中途半端となりましたことをお詫びし、ご報告に代えさせていただきます。皆様のご協力に、感謝申し上げます。







2012～2013年 情報研究会実行委員会
(松戸西ロータリークラブ)

3事業委員会 委員長	: 石井 弘
3事業委員会 (情報研究会担当)	: 松尾雄二・杉浦昌則
情報研究会実行委員	: 松戸西RC全員
構成・編集	: 河合直志